

【実践報告③】

主体的に考え、判断し、行動できる生徒の育成

東浦町立北部中学校

1 はじめに

北部中学校は、まもなく開校50周年を迎える中規模校である。開校時からオープンスクールを念頭に置いた校舎設計がされており、特別教室以外にラーニングスペースやホールといった大きな学習スペースが、通常の中学校の廊下にあたる部分にあることが大きな特徴である（資料1）。本校には緒川小学校と森岡小学校の二つの小学校の児童が3対2の割合で入学してくる。真面目で言われたことをしっかりと取り組む生徒たちが多い。

中学校と校区内の小学校との3校で「北中校区トライアングル」という名前で連携を強化し、毎月の挨拶運動や、夏休みに中学生が小学生の学習を補助する寺子屋教室、ごみ拾いボランティアなどの合同活動を行っている。しかし、新型コロナウイルス感染症による休校や行事の中止が続いた影響もあり、活動に参加する生徒の数が減少傾向にある。

【資料1 教室前ラーニングスペース】

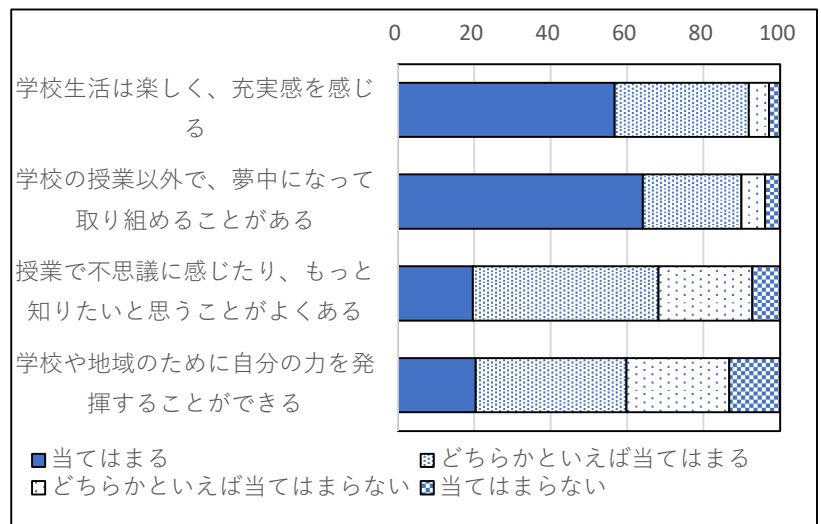


2 研究の経緯

(1) 研究主題の設定

研究の最初に行ったアンケート結果では、「学校生活は楽しく、充実感を感じる」「授業以外で、夢中になって取り組めることがある」と答える生徒が多いことが分かった（資料2）。その一方で、「授業で不思議に感じたり、もっと知りたいと思うことがよくある」「学校や地域のために自分の力を発揮することができる」の項目が低く、主体性に課題があることが分かった。そのため、生徒の主体性を高めるために、研究主題を「主体的に考え、判断し、行動できる生徒の育成」と設定した。

【資料2 生徒アンケート結果】



(2) 過去の実践

ア 授業で導入部分の工夫

授業の導入で生徒の興味・関心のあるものを取り入れる授業改善の工夫を通して、生徒が主体的に学ぶことにアプローチできると考えて実践を行った。しかし、確かに導入時における生徒の参加意欲は高まったものの、それは導入時にとどまり、単元を通して生徒が意欲的に学び続けることができないという課題が残った。

イ 自学の時間の設定

1時間の授業内に、自学の時間を設定した。さまざまな学習材の中から、生徒は課題を自ら選択し、学習に取り組む姿が見えた。この取組は、生徒が自分で選択したことで、最後までやり遂げようとする姿が見られたが、教師が準備した課題や選択肢などのタスクをこなすだけになり、主体的に学ぶとする姿には至らなかった。

(3) 生徒を中心に据えた取組への挑戦

ア 教師の教育観の見直し

これまでの取組で、生徒たちの主体的な学びを妨げているものは何かと考え、根本的に教師の教育観を見直す必要があると考えた。どのように教師が教えるのかという考えから脱却し、「どのように生徒たちが学ぶのか」という視点で研究を見つめ直した。生徒を信じて学習を委ね、生徒が自分たちで学習を進めることを研究の中心に置き、現職教育主任が主導して全職員で取り組んだ。

イ マイプラン学習（自由進度学習）の導入

AARサイクルを意識し、単元のまとまりで生徒たちに学びを返す単元内自由進度学習を取り入れた。本校では、単元内自由進度学習、若しくは単元の一部で自由進度学習を取り入れた学習のことを「マイプラン学習」と名付け、学習へ取り組む方法の共通理解を図った。

3 実践

(1) マイプラン学習について

マイプラン学習の基本のスタイルは、最初の1時間にオリエンテーションで学習の意欲化を図ったり、学習の計画を立てたりする。また、最後の1時間をまとめの時間として使用する。それ以外の時間は、生徒に返し、生徒たちが自分で立てた学習計画に沿って学習を進める。また、毎時間、最後の数分を使って振り返りをし、次の学習への見通しを立てる。自分の計画の修正をして、自分の学びを調整する。単元の最後には、1時間を使ってまとめを行っている。一人一人の学びの成果を共有しながら、協働的に学びを深める時間としている。教師も生徒たちの学びを紹介し、成果を価値付けることで次のマイプラン学習の意欲付けを図ることも大切にしている。

ア 社会科での実践

「近畿地方」と「中国・四国地方」の2単元の学習に同時進行で取り組んだ。オリエンテーションでは、近畿地方の各県で一番高い建物のランキングを見せ、何のランキングかを考えさせた。生徒たちは、「人口」「文化遺産の数」など、答えを考えて発表した。なかなか正解が出ないため、「単位はメートルです」と伝えると「建物の高さ」とある生徒が正解を答え、他の生徒からは驚きの声が上

【資料3 学習の手引き】

★中国・四国地方★			
目標 (中国・四国地方)	知 識	思 考 力	態 度
	●様々な資料から、地域ごとの人口の増加の様子やその要因を適切に読み取り、中国・四国地方の地域的特色を「人口や都市・村落」を中核とした考察の仕方を基に、理解し、その知識を身に付けている。	●中国・四国地方の地域的特色を「人口や都市・村落」を中心とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察している。	●中国・四国地方の地域的特色を考察した過程や結果を図や文章などに適切にまとめている。
	●中国・四国地方を「人口や都市・村落」を中核とした考察の仕方を基に、地域にみられる地理的事象や事柄を意欲的に追求している。	●中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追求している。	
学習の流れ			
学習内容		教科書	学習整理 白地図
中国・四国地方の自然環境と人々の関わり		p.180～	p.14, 15
人口分布のかたよりと人々の生活		p.182～	
都市部や農村部を結ぶ交通網		p.184～	
地域に根ざした農業と作り手の人々		p.186～	
豊かな魅力を生かした地域活性化		p.188～	
☆チェックテスト④【日本の諸地域 中国・四国地方】☆			
中国・四国地方単元の振り返り			p.36, 37
近畿地方の自然環境と人々の関わり		p.194～	p.16, 17
現在にいきづく歴史的都市の特色		p.196～	
港町から世界へ		p.198～	
伝統を生かした産業と世界進出		p.200～	
歴史を生かした観光業の推進		p.202～	
☆チェックテスト⑤【日本の諸地域 近畿地方】☆			
近畿地方単元の振り返り			p.42, 43

がった。その後「なぜ奈良県は一番高い建物でも46mなのだろう」と問いかけると、それぞれが真剣に考え始めた。また、中国地方についても、鳥取砂丘やあごだしのペットボトルなどの写真を見せながら、何の写真なのかを考えさせた。これらにより、生徒たちは近畿地方や中国・四国地方のことをもっと知りたいという気持ちが高まった。その後、生徒は学習の手引を参考に学習計画を立てた（前ページ資料3）。その際、単元の目標と、単元の構想をしっかりと伝え、いつでも確認できるように学習の手引にもしっかりと明記した。このようにして、オリエンテーションでは、生徒に学習の見通しをもたせ、意欲を高めさせている。

2時間目からは自分たちが立てた学習計画に従い、一人一人がそれぞれ自分のペースで学習を進めた。学習の場所も生徒が選択し、教室を出てラーニングスペースで学習をする生徒もいれば、そのまま教室で学習を進める生徒もいた（資料4）。自分のペースで学習を進めていくので、時間の使い方も自分で調整をしながら学習を進めていた。

また、教科書で学習を進める生徒もいれば、タブレットを使ってグループで学習を進める生徒もいた（資料5）。このように学習方法も自ら選択して学習を進めさせるようにした。

一方、教師は生徒たちの学びを支えるために、生徒の学びを見取っていく。手が止まっている生徒には、学びの内容を確認して助言をしたり、他の生徒との関わりを増やすような声かけをしたりした。

イ 数学科での実践

マイプラン学習では、早く学習を終えた生徒のために発展的な課題を用意している。

「変化と対応」の単元で学習が早く終わった生徒は「線香の燃える時間と長さが関数にな

【資料4 学習場所の選択】



【資料5 学習方法の選択】



【資料6 探究学習のまとめ】

線香の関数

式

$$y = 13 - x$$

x は y に反比例していないか 関数ではある

約 一次関数です



y (min)	13	12.5	12	11.5	11	10.5	10	9.5	9	8.5	...
x (min)	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5	...

【資料7 学びを支える学習環境】



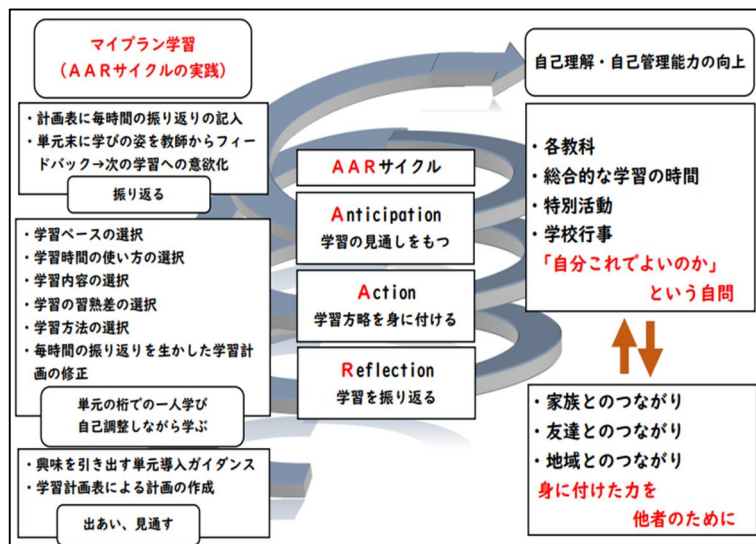
るのか」という課題設定をして実験を行い、それを表にまとめることができた（前ページ資料6）。

また、生徒たちが自分たちで学習を進めることができるように学習環境を整えた（前ページ資料7）。常に掲示しておくことで授業時以外にも見ている生徒がいた。

(2) 自己理解・自己管理の向上との往還

本校では研究構想図右側のように自己理解や自己管理能力の向上にも努めている（資料8）。そのために、各教科、特別活動、学校行事の中で、常に「自分これでよいのか」という自問自答や、「身に付けた力を他者のために」発揮することを大切にするために、他者や地域とのつながりをさまざまな機会を考えさせるようにしている。この自己理解・自己管理能力の向上とAARサイクルを意識したマイプラン学習とを往還させながら、主体的に考え、判断し、行動できる力の育成を図っている。

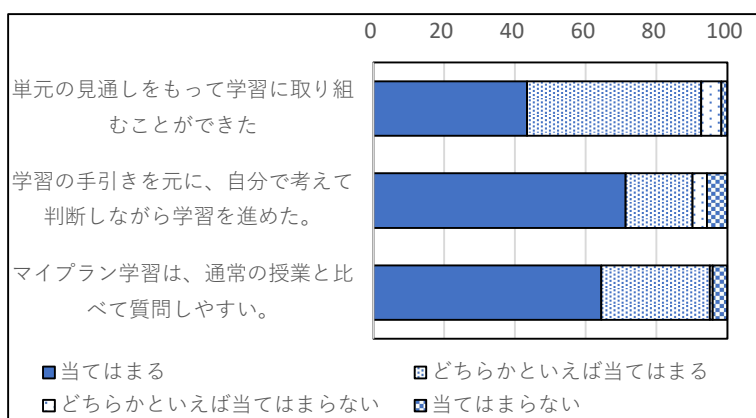
【資料8 研究構想図】



4 研究のまとめと今後の課題

マイプラン学習のアンケート結果では、「見通しをもって学習に取り組むことができた」「自分で考えて判断しながら学習を進めることができた」の質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合が9割を超えている（資料9）。このことから学習を調整しながら、粘り強く主体的に学んでいると考えられる。また、「マイプラン学習では、通常の授業と比べて質問しやすい」と答えている生徒もたくさんいて、この学習において自ら教材や他者と関わろうとしていることが分かった。

【資料9 マイプラン学習のアンケート】



このような学習では、教師による生徒の見取りが大切になる。どのタイミングで、どのような声かけが必要なのか、どのような支援が効果的なのかなど、それぞれの場面を想定しながら協議をする機会を充実させ、教師の生徒の学びを見取る力を向上させていくことが今後の課題である。

5 おわりに

今後も「子どもは有能な学び手である」という認識の下、生徒一人一人の学びを尊重していくために、現職教育を通して教師の力量向上を図ることが重要であると考えます。そして、より主体的に考え、判断し、行動する自ら学びに向かう生徒を育てていくよう、研究を進めていきたい。